

図書館だより

No.30 (H30. No.7)

2018年10月2日

◇9月(8/30~9/30)の学年別貸出冊数

学年	中学1年	中学2年	中学3年	高校1年	高校2年	高校3年
貸出冊数	257冊	535冊	242冊	111冊	37冊	35冊

総貸出冊数 1421冊

◇開館スケジュール

原則、毎日開館です。日曜・祝日のみ閉館(1, 7, 8, 14, 21, 28日)

◇新着案内

新着図書が102冊入りました。教室掲示の新着図書案内と図書館内の新着本コーナーをご確認下さい。

新着図書ピックアップ

◎『10代に語る平成史』 後藤謙次 著 (210.7ゴ) 岩波ジュニア新書

来年で年号が変わります。1989年1月8日から始まった激動の30年、テロ、地震、災害、原発、国際政治等、昭和とは一変した世界の現状を振り返り、世界史の変化が実感できます。

◎『おりがみで作るオーナメント』 布施知子 著 (754フ) 誠文堂新光社

平たいオーナメント、立体のユニット、丸いくす玉の3タイプのおりがみの図案集で、作品はインテリアとして楽しめます!こつをつかめば簡単なので、皆さんも作ってみてはいかがでしょうか?

◎『ミダスの河』 柄刀一 著 (913.6ツ) 祥伝社

信玄の埋蔵金伝説の残る山梨で殺人と誘拐が同時発生。

内田康夫・柄刀一、両作家が生み出した名探偵・浅見光彦VS天才・天地龍之介
奇しくも、この地でのこの出会いがより深く我々を物語に誘う。

◇お知らせ

- ・展示コーナーでは、『修学旅行 台湾』の特集展示をしています。台湾の歴史や文化に関する本もありますので、ぜひご覧ください。
- ・読書スタンプラリーは9/27で終了しました。回収の受付は10/5(金)までです。参加した方は館内カウンターボックスに、用紙を提出してください!

小論文・研究論文の作成(書き方)等の本の配架場所を紹介します

10月に入り、小論文対策や探究の論文作成等が間近に迫ってきました。

それらの本がどこにあるか紹介します。小論文や研究論文の書き方等についての本は基本的には、800:言語の中の「816」:文章、文体、作文(論文)に分類されています。

しかし、小論文に関しては、「376」:教育—入学試験、受験等にも分類されます。さらに、小論文対策に関係の深い時事用語(キーワード)は、「031」:日本語の簡易百科事典等も確認しておきたいところです。

研究(論文)に関しては、「002」:研究や調査に必要な情報の集め方及び整理法及び、「007」:情報検索、データベースについても押さえておきたいところです。

本校図書館では、利便性を考えてそれらの中でめぼしいものをカウンター横のブックトラックにまとめてありますので、まずはそこから探してみてください。

※ 小論文とは、論理的構成をもった記述式解答の1形式と考えてください。その対策は、形式を押さえるために、とにかく書いて先生などに添削してもらうことです。だいたい10回書けばマスターできます。

今回は第3回に引き続き、自分の考え（論）を展開し、まとめていくかの書き方について述べます。

☆図書館を活用しよう 第6回 <論文を書くために2：パラグラフ・ライティング>

1 論文の書き方としての形式

伝わりやすい論文の書き方として、**パラグラフ・ライティング**の形式で書くことを薦めます。

2 ルールのある意味段落

パラグラフとは、ここでは、以下のルールのある意味段落であると定義づけしておきます。

- ① **一つのパラグラフでは一つのトピック（主張）だけを述べる。**
- ② **一度述べたトピック（主張）を他のパラグラフで述べない。**
- ③ **パラグラフの先頭には、そのパラグラフの要約文を置く。**

このルールは、パラグラフが変わるということは、トピックが変わることを意味します。逆に言うと、パラグラフが変わらないなら、トピックは同じままであることを意味します。また、各パラグラフの先頭文でそのパラグラフで述べるのが要約されていますから、読み手にとって先頭文を読めば粗筋がわかり内容が容易に理解できます。「**1パラグラフ1トピック**」が基本となり、「**トピック（主張）+根拠**」でパラグラフが構成されます。（※ プレゼンのスライドも1トピックで1枚にしましょう。）

3 グローバル・スタンダードとしてのパラグラフ・ライティング

英語圏ではこのパラグラフが書けることが文章の基本という合意があり、小学校低学年から習い始めます。文を作成するとは、意味のある最小単位のまとまりとしてのパラグラフを書くことになり、これは中学校から大学院までのアカデミック・ライティングおよび、ビジネス文書でも基本的な常識とみなされています。論文の役割は、著者の組み立てた論理構造を読者に正確に伝えることなので、英語圏では論理構造に基づくこの方法がグローバル・スタンダードとして論文の記述法として定着しています。

4 伝わりやすい論文

パラグラフ・ライティングを基礎にすることで、読み手も書き手も同じルールを共有するため、読むときには必要な箇所をすばやく探し出し、効率的に読むことが可能になります。書くときにはルールを習得すれば、文章の巧拙に関わらず読み手を意識した論理的でわかりやすい文章を書くことが可能となるのです。論文は「読み手に（正確に）伝わる」ことが大事です。**パラグラフ・ライティング**の形式の文章は、美しくもなく感銘を与える文章ではありませんし、その必要もありません。しかし、形式にそって書くことは「型」に慣れてしまえば、課題に対する構想（具体策等）が決まると、短時間で書き上げることができるという利点があります。

5 論文全体の構成

序論：総論：問題提起⇒解決案（筆者の主張）

↓

本論：証明：主張の内容を、下位分類、分割し、各パラグラフで段階的に正当性を立証していく

↓

結論：総括（論拠を踏まえた主張の繰り返し）、今後の課題の提示など

本論では、各パラグラフ内は構成要素が特定しており、①主張、②主張の理由づけ、③外部からの引用、主張および理由づけの正当性を証明するための論拠となるデータ、④論拠および理由付けから主張を導き出すための裏づけとなる、より一般的な価値観となります。

主張は基本的には**パラグラフの冒頭**におきます。

※ 参考となる本を紹介しておきます

- ・ はじめての研究レポート作成術（002-ヌ）
- ・ 論理が伝わる（世界標準の）「書く技術」「パラグラフ・ライティング」入門（816-ク）
- ・ （まんがでわかる）理科系の作文技術（816-キ）